

第2回 FD 研究会

基礎学力調査

2009年12月9日(水) 文責 近藤敏夫

今年度からC社の基礎学力調査を新規に導入した。C社は全国で最大規模の大学受験模擬試験を実施しており、その経験に基づき大学入学後の学力調査に参入してきた。C社の基礎学力調査は、高校の科目試験に対応する「学習調査」と高校3年時の学習態度を尋ねる「学習実態調査」の2つで問題が構成されている。本学では「学習調査」の国語のみを用いた。第2回FD研究会では「学習実態調査」の結果を基にして、本学への志望理由、大学の学習で力を入れたいこと、大学生活で力を入れたいこと、大学での不安等について、全学の傾向および学科別の特徴を概観した。

以下、主な話題を抜粋して紹介する。

話題

学科別の集計表に簡単なコメントを付けて学部・学科に渡してやれば、対策に役立つ項目がある。例えば、本学の志望理由は志望の学部や学科があるということであるが、教育学科、理学療法、作業療法など、目的意識がはっきりしている学科で高くなる。他の項目と合わせると、新入生の視点から見た学科の特徴がよく分かる。

「大学の選定条件」で、立地・場所、施設・設備、校舎の新旧があるが、まず立地・場所に関しては重視する学生が6割と多い。学科別に顕著な差はない。ところが、施設・設備になると、保健医療学部の学生が7割前後と重視している。次が教育学科で施設・設備を重視している。校舎の新旧に関しては、あまり問題にされていない。

本学を志望したときの状況は、理学療法、作業療法、社会福祉、教育学科など、人気学科のところは第1志望が多い。これらの学科は第1志望が5割以上である。

本学を選んだ時期は高校3年生の夏ごろが多い。ところが、理学療法、作業療法、教育学科は高校2年生の夏に決める学生がいる。明確な進学目的や、自分のやりたいことに合わせて来ている学生であると思われる。この傾向は理学療法、作業療法、教育学科の特徴である。

大学へ進学した理由も学科の特徴が出る。全学的に資格・免許志向が多いが、臨床心理では専門的な知識・技術を求める率が高く、現代社会は就職に有利であることが理由にあげられる。

以下、詳細は本『FD Review Vol.5』の「基礎学力調査の結果」を参照していただきたい。

まとめ

データの整理・分析を進め、調査結果を教授法開発室内だけでなく、学部・学科単位で分析、活用することが望ましい。